

## 平成29年度 第1回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 平成29年8月10日(木) 午後1時30分～3時30分

【場 所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 (委 員) 菊池 秀夫 (中京大学スポーツ科学部 教授) 《会長》  
梅村 正幸 ((公財) 豊田市体育協会 事務局長) 《副会長》  
岩月 富士雄 ((一社) 豊田市身障協会 理事)  
岩月 幸雄 (健康づくり協議会 会長)  
加藤 恵美子 (豊田市スポーツ推進委員協議会 会長)  
岸田 多加司 (トヨタ自動車(株) 人事部 グループ長)  
近藤 典彦 (豊田市区長会 書記)  
酒井 康成 (高齢者クラブ連合会 スポーツ部長)  
千賀 啓三 (豊田市サッカー協会 会長)  
田中 希代子 ((株) 名古屋グランパスエイト マーケティング部係長)  
手嶋 道雄 (豊田市スポーツ少年団 本部長)  
徳増 年彦 ((株) 豊田スタジアム 取締役事業推進部長)  
安江 与志幸 (豊田市ラグビーフットボール協会 理事)

【欠席者】 (委 員) 谷山 由香利 (豊田市女性スポーツ団体協議会 会長)  
藤田 武士 (中小学校体育連盟豊田支所 副支所長)

【事務局】 福嶋 兼光 (教育長) 塚本 誠 (生涯活躍部長)  
辻 邦恵 (生涯活躍部副部長) 村中 正史 (スポーツ課長)  
畔柳 隆二 (スポーツ課副課長) 山本 肇 (スポーツ課担当長)  
太田 信人 (スポーツ課担当長) 杉坂 直輝 (スポーツ課主事)

【傍聴人】 0人

【次 第】 1 委嘱状交付  
2 生涯活躍部あいさつ  
3 委員紹介  
4 会長選出  
5 会長、副会長あいさつ  
6 議題 第3次豊田市生涯スポーツプランの策定について  
(1) 第2次豊田市生涯スポーツプランの進捗状況について  
(2) 次期豊田市生涯スポーツプランについて  
(3) 今後のスケジュールについて

## 【会議録（議題部分のみ）】

### ■第2次生涯スポーツプランについて

事務局：資料に基づき説明（資料：第2次豊田市生涯スポーツプラン概要版）

### ■議題（1）第2次豊田市生涯スポーツプランの進捗状況について

事務局：資料に基づき説明（P 1～P 6・別添資料1）

会 長：説明事項について、意見については議題（2）と一括して受けたいと思います。

ご質問があればお願いします。

《質問なし》

### ■議題（2）次期豊田市生涯スポーツプランについて

事務局：資料に基づき説明（P 7、別添資料2）

会 長：説明事項について、議題（1）も含めましてご意見やご質問がありましたらお願いします。

委 員：この資料を拝見したときに、ある意味ショッキングな数字に驚きました。私自身、名古屋市民として、まちの規模が大きいせいか、スポーツを身近に感じたことがありませんでした。豊田市に来て、地域スポーツクラブにおいては、活発な活動が行われています。先ほどの説明ではクラブごとの温度差はあるようですが、地域に根差したスポーツクラブ活動が展開されています。豊田スタジアム、スカイホール豊田を始めとする各施設でいろんなイベントや競技会が開催されており、豊田というまちは、生涯スポーツのまちが実践されている市だと思っていました。実際に、本日こういう形で進捗状況を見て驚きました。数値目標について、数値だけで評価するのは適切ではないと思いますが、数値目標の半分以上はH 2 1年から目標達成するどころか、下がっている現状があります。何が原因なのか、もっと掘り下げて原因を究明していかないといけないと思いました。でなければ、次期生涯スポーツプランを策定しても、絵に描いた餅で終わってしまうのではないかという懸念があります。企業でいうと、PDCAサイクルを回し、それぞれの視点で、計画に基づいてきちり行われているのか、改善の意識をもって取り組まなければ、なかなか市民の皆さんの理解は得られないと思います。豊田というまちは色んなリソースがあるまちです。そのリソースを十二分に活用し、ぜひともさらなる発展につなげていくまちであればいいと思います。

会 長：思ったように進んでいない現状について、もう少し原因分析が必要とご意見いただいたが、事務局の方で把握していることがあれば、お願いします。

委 員：よろしいでしょうか。以前、社会人144チームの登録があったが、今年度の登録は66チームです。サッカー熱は上昇しているのに、ボールを蹴る人が少なくなっている。指導者に聞くと、今、若い子の興味関心が薄れているそうです。グループで何かをやったりすることが少なくなった時代で、チームを増やしたくても増やせられず、心配しています。外国のチームも参加しなくなってきました。そんな中、取りまとめたりする、支える人は誰がするのか。誰が支えるところをバックアップするのか、指導するのかが難しいと思います。昔、教員をやっていたときは教育課程の中に業間活動をやっていました。体力向上への取組等、今はできていないように感じています。先ほども申しましたが、支える人はどういう予算付けをしてどこの組織がやっていくのかということ。サッカーだけで見えています、少子化によりクラブチームがなくなっています。中学校でもサッカー部が無くなった学校があります。そのあたりについて、

明るい方向に導けたらと思っています。

会 長：ありがとうございます。進捗状況の報告にもありましたが、子ども達、先進国の中で二極化が進んでいます。サッカーにおいてもやる人はやる、やらない人はやらないという風潮が広がっています。

委 員：お金のいる人は地域クラブへ参加し、お金のない人は、あまり参加できないというような、そのような現状があるのではないのでしょうか。

会 長：スポーツのライバルはスポーツでは無く、お金のかかる余暇レジャー活動といわれています。そのあたりをしっかりと把握していくのが必要だと思います。

委 員：誰が支えていくのかというところが大事だと思います。

会 長：今、お二方からの意見がありました。現状で原因分析ができていない部分があれば意見を願います。

事務局：現時点で、子どもの体力低下の原因について、現時点では把握していません。これからのステップになると思います。教員の立ち話程度の情報ですが、人の価値観の変化、子どもも同様に、外で遊ぶことに楽しみを持たなくなった傾向と、子どもの少子化により一緒に遊ぶ友達が少ない、環境の変化というものがあるかもしれないと考えています。以前、登下校は歩きが当然でしたが、現在はバスが使われているところもあります。登下校は毎日のことであるため影響が出ているのではないかと分析をしている教員もいます。そのあたりを踏まえながら第3次のプランを策定する過程のなかで分析していければと考えています。

事務局：私も今年からスポーツ課を所管するようになって、この結果には驚いています。スポーツ課のところで努力はしていきます。しかし、運動面だけでなく、国民生活、市民生活がどうなっているのか、しっかり分析しなければ、この分析結果は出すことができないのではないかと考えています。あるテレビ番組では、20代、30代の実施率が悪くなっていると言っていました。我々が若いときは仕事終わりに当たり前のように、ゴルフも、スキーも、テニスもしていました。そのような現象は最近なくなっているとテレビで言っていました。スポーツのライバルはスポーツの中では語られず、車を買わなくなっているのは、お金がスマホの通信費に使われていることなど多様化が進んでいます。これからの生涯スポーツプランを考える際も、多面的に考える必要があります。国民生活、市民生活のお金のかけ方、時間配分、関心事がいろんなところが変わっているということをつまみながら、どこにどのようにポイントを絞ってスポーツ振興をやっていくのか考えなければいけません。また、誰がそこを担っていくのかも考えなければいけません。

指標として、5年後のこの場でその指標を基にどうだったかということをお話する指標であるのかということをお考えなければいけません。皆さんの身近なところで気になっている現象等、大人でも子どもでも、感じている事柄があれば教えていただきたいと思っています。

会 長：先ほどありました、スポーツの取りまとめとか、誰が現場で取り仕切るのか、わからないという意見に対し、どうでしょうか。スポーツを支える部分について意見はありますか。

委 員：中京大学のサッカー部は、1軍は全国各地を転戦しています。2軍、3軍は、時間がたくさんありますが、自分で動きません。小学生、こども園に教えに行く時間も、指導する力もあります。行政の力で、高校生やアマチュアを小学生に派遣する仕組みを作ってほしいと思います。オランダにいた際、ボランティアで若い世代同士で教え合っていました。シニアの世代も一緒でした。それは、行政が繋いでくれた結果です。それが、次の世代を育てることにつながると

思います。

委員：今の意見に対しまして、体協、スポーツ課含めまして中京大学との派遣のシステムを検討しています。学校の予算の問題が解決すれば実現できる状態です。学生に大学から単位を与えられないかという点も含めて検討しています。

委員：何もなしでは、学生も動かないと思うので検討していただきたいです。責任を行政がとり、行動してもらうのは若い世代でいいのではないかと思います。

委員：近年、泳力の低下は顕著にみられます。私に関わった学校について、小学校4年生、25メートルが泳げません。ブロック大会のお手伝いをさせていただいていますが、スイミングスクールに行っている子以外を見ると泳げなくなっています。要因としては、夏休みのプールが開放されにくくなっている現状があります。以前は、9月でも授業がありましたが、なくなっています。ご指摘されたとおり、プール開放を誰が管理するのかというところの話になってしまうと思います。また、教員においても、泳力の向上をさせたくても、不得意な分野の指導では、必要なレベルまで到達させることが難しくなってしまうと思います。

会長：今の意見に共通していることは、支える人はいるが、活用しきれていないところだと思います。いろんな意味でボランティアは重要になっています。ボランティアも無給ではなく、今はある程度報酬は必要だと思っています。ボランティアのあり方も社会的に変わってきています。支えることについて、スポーツ資源を活かすべきではないでしょうか。

委員：生涯スポーツについてお伺いします。中高齢者向けのスポーツ教室の充実について。高齢者の介護予防教室のお手伝いをしています。名称としては元気アップ教室。高齢で運動の習慣のない人に対して、教室という形でグループを作って、その後自主グループで月1回2回運動を続けていってもらうためのお手伝いをしています。現在99グループです。年50グループずつ増やしていく予定です。かなり急増で作ろうとしています。スポーツと介護予防の関係性についてもお伺いします。生涯スポーツに含まれるのでしょうか。ウォーキングの扱いについても同様に、競技スポーツではなく、家の近くでのウォーキングなどの運動の扱いについて教えてほしいです。スポーツプランの中に含まれるものなのかどうか教えていただきたい。介護予防なので保健部の事業かもしれませんが、地域スポーツクラブが開催している健康教室と似ている部分があるので、スポーツプランの中に入ってくるのかお伺いします。

事務局：元気アップ教室については市の主催事業として実施しているのは認識しています。このプランの中の、具体的なプランの策定については、所管課と調整していきます。スポーツの一面があるということであればこのプランの中で紹介していこうと考えています。

委員：ボランティアについては、私たちは元気アップ教室のお手伝いに行った際には、報償費として、1回1,000円交通費ということで受けています。

委員：中高齢者の教室の数が明記されています、114教室に高齢者教室は含まれているのかどうか教えてください。私たちの障がい者のスポーツ教室を実施しています。

事務局：現在の整理の中では含まれておりません。国の第2期スポーツ計画にも含まれておりますので、次期スポーツプランには盛り込んでいきたいと考えています。

委員：身障協会が委託を受けて講座を6講座、延べ11教室を実施しています。障がい者は体力保持が目的として定めています。障がい者の大きな主題の中に残存維持訓練があります。身体の健全な部分を管理していこうという考え方で、この考え方を基に教室を実施しています。あわせてこういう機会に改めて伝えさせていただき進めていきたいと考えています。

事務局：今回の行動計画の策定については、庁内の関係部署と情報共有など連携を取りながら策定しています。

委員：所管課からの話だけでなく、私たち自身の話を直接聞いて頂けるとより深いプラン策定ができると思います。

事務局：教育委員会スポーツ課から市長部局に異動してきた意味を深く考えています。生涯活躍部の中の市民活躍支援課は高齢者クラブ、シニアをサポートするヤングオールドサポートセンターがあります。健康部の方からウオーキング事業もスポーツ課へ託されました。今、スポーツ課の幅も広がっています。トップアスリートの応援だけでなく、健康な市民が健康な生活を送るためにどう支えていくかという、部の使命を負っています。介護予防について健康部が直接行っていきますが、いかにスポーツとの連動の中で健康、体力維持向上を捉えていくのかということ、さらには障害者の皆さんの機能維持もひとつのスポーツとして関わっていただけるのかということについて、総合的にみていきたいと考えています。所管部局が健康部、福祉部だとしてもせっかく市長部局に来たスポーツ課としては幅広く見ていき、今後のスポーツプランにに入れていきます。

会長：生涯スポーツのことを英語で「Sports For All」と表現される。言葉通り、高齢者も障がい者も健常者も大きく捉えながら、次期生涯スポーツプランの策定していくべきだと思います。

委員：大体10万人の高齢者がいます。そのうち、高齢者クラブに入っている方は25～30%、その中で積極的にマレットゴルフに参加している方は数千人、ゲートボールは数百人が取り組んでいます。また、自発的にウオーキングや散歩、体操を実施している方もいます。重点施策のうち、市のスポーツ教室事業について、今どのような形で実施しているのでしょうか。また、教室参加にあたり、無料なのか有料なのか教えていただきたいです。

事務局：地域スポーツクラブの教室は基本的には有料です。これからの時代は、受益者負担の考え方の基で、それに見合った内容のものを提供していけるよう整えていかなければいけないと考えています。

委員：地域スポーツクラブの年会費も2,000円～3,000円かかってくる。地区によって登録料が高額になるのは入会したい高齢者にとって、厳しいのではないかと考えています。

事務局：スポーツを気軽に始められる環境となるように地域スポーツクラブに働きかけていきます。

会長：もうひとつ、高齢者のスポーツが重点施策の中でどのように位置づけられるかという質問についてはいかがでしょうか。

事務局：豊田市においても、超高齢社会が進行しています。その方々が何もしないのは、高齢者にとって生きがいの的にも何も生みません。高齢者に対して、スポーツを提供できるのはあらゆる面で好循環を生むと考えています。生きがい、健康面、医療費削減です。今後は、高齢者にもスポットをあてて取り組んでいかなければいけないと考えています。

会長：現状ですと、メインのターゲットは子どもと成人であるが、今後は、高齢者をターゲットに加えるということでしょうか。

事務局：確かに今、高齢者に対する課題が出てきています。加えて、その陰に隠れて30代、40歳代の成人のスポーツ実施率が低くなっている。そこにスポットを当てて進めていきたい。今、会社の運動会が無くなっていると伺っております。運動会自体は、運動会に向けた練習、一体感、連帯感を高めるといった効果があると思っています。そういった点を踏まえながらアプローチできればと個人的に思っています。

委員：子どもの体力測定データの抽出は抽出校のみでしょうか、市内全学校のデータですか。

事務局：全学校です。

委員：中京大学陸上競技部の教員が毎年50人くらい子どもを集めて体力テストの診断をしているということを知っています。数値が上がった時期もありましたが、下がっており驚きました。目標として市平均値を上げるのであれば、子どもたちの二極化も進んでいるので、運動しない子に対して、社会教育ではなく学校教育において、体力テストの練習を行うべきではないでしょうか。そこまで行わなければ、平均値に達することは望めません。運動していない子どもに対して、体力テストの練習をやれば必ず変わります。

委員：ある学校の水泳部の手伝いさせていただいたとき、間違いなく指導すれば泳力は上がるということを実感しました。小規模校だったので、効果的に泳力が上げることができました。子どもが25メートル泳げて喜んでる姿を見ると、やっぱりうれしくなります。

事務局：貴重なご意見ありがとうございます。

会長：不活発な子たちをターゲットに働きかけるとのことですね。

委員：共働。コミュニティスクールを各中学校において組織を作っています。スポーツのボランティアを募っていますが、どこまで進んでいるか把握していません。支える側の担い手については、その点と関連性があるのではないかなと思います。

事務局：今の話は、浄水中ですか。

委員：保見中です。

事務局：学校ばかりに頼ってられない現状があります。その一方で、コミュニティスクールの考えは市が進めている考え方です。地域の住民の皆さんが学校のほうへ支援に入って行く。生徒も地域の方へ入って学びの機会を得る。高校生、大学生の人材の活用とからめて、可能性はあると考えています。ひとつ聞きたいことがあります。30歳代、40歳代の社会人の生活がとても忙しい方たちへのアプローチ方法は一番難しいと考えています。高齢者、障がい者は皆さんの関心も高くターゲットがはっきりしているため、やりやすい面があります。一番難しいのは、社会人のみなさん、生活がとても忙しい方だと思っています。そんな中、トヨタ自動車はトップの方始め社員のみなさんがスポーツをする風土が醸成されていると感じています。そういった環境になるための取り組み方のポイントについてぜひ教えていただけないでしょうか。

委員：駅伝が非常に盛んに行われています。毎年12月の第1週の日曜日に開催します。各所属部署がチームを作り、出場しており、昼休みや終業後に若い子などは練習をしています。また、運動会については、「ふれあい」ということで年間計画をもとに各工場が開催しています。30歳代、40歳代が運動する時間がないということについては、平日は忙しく時間が取れない上に、休日は家族サービスに時間をあてています。そのため、スポーツに取り組む時間がなかなか取れないというのはあるかもしれません。例えば、国のプレミアムフライデーとも連動して実施するのも一つの手段だと思います。

委員：ひとつご質問をさせていただきます。今年6月に全国スポーツ少年団指導者研修会が開催されました。その中で基調講演をしてくださった大学の先生が、「スポーツ少年団は、東京オリンピックの年に設立された。東京オリンピックで一流のレベルの高いスポーツを観戦できたことが子どもたちに大きな衝撃を与えました。」とおっしゃっていました。私自身小中学生が、実際にスポーツイベントに関わったという経験が大切になると感じています。体験するのが大きな財産になるので、子どもたちにイベントに関われる機会をボランティアとして作っていただ

きたいです。各団に募集をかけるなどやり方はあります。そして、ボランティアに参加する子どもに対して、教育委員会、体育協会主催で特別な催し物を開催していただければ、子どももうれしいと思います。

事務局：大変ありがたいご意見ありがとうございます。一流の競技会の場に関わるということは、子どもたちにとって大切になると思っています。豊田市としても大会を開くだけではないと思っています。何を遺産として市民の中に残すのか、それはラグビーワールドカップ 2019™を始め、大会に関わった経験を糧にさせていただかなければいけません。生涯活躍部が市民に運営に関わってもらい、いかに実体験を残していくのかという課題解決を、生涯活躍部の使命として与えられています。つつい大人目線で考えてしまいましたが、少年団の話聞かせていただく中で、子どもでも十分な活躍が見込めると感じました。そういう面ではグランパスは、意識的に子どもたちをピッチに上げているように感じたのですが、いかがでしょうか。

委員：そうですね。

会長：ありがとうございます。ボランティアとして大人だけでなくスポーツ少年団等、スポーツ資源をどう活用するかにつながっていると思います。その他いかがでしょうか。

委員：第2次生涯スポーツプランにスポーツの定義が載っています。歩きや自転車での通勤も、スポーツになっています。第3次生涯スポーツプランにおいても、今後も含んでいくということでもよろしいでしょうか。

事務局：第2次生涯スポーツプランを整理する際に、スポーツの定義を見直しています。繰り返しとなりますが、今後の計画策定の中で整理していきます。特に定める必要があるのかということも含めて、定義について検討していきます。

委員：第2次生涯スポーツプランには載っているが、アンケートには入っていないということですか。

事務局：おっしゃる通りです。

会長：スポーツの定義については、世界的にはスポーツと身体活動、買い物についても速足で歩きましょう、といったこともスポーツになっているため、そのあたりも検討していくべきだと思います。スポーツそのものの定義は、アンケートの中においても、何が要因でスポーツ活動が上昇しているのかというところにつながっていくと思います。

事務局：ちなみにアンケートの項目の中には散歩・体操ということが明記されている。通勤や買い物については明記されていないので含まれていないですね。定義づけは重要な部分だと思っています。

会長：全体を通して、ご意見等ありましたらお願いします。

事務局：最後に今後のスケジュールを説明。(P 8)

会長：ただいまのスケジュールについて、質問等ございますでしょうか。  
それでは、これをもちまして事務局にお返しさせていただきます。

以上